

特集「自然エネルギー普及のカギ握る 電池大ブーム」

蓄電池技術者のヘッドハンティングは、当社が最も力を入れている分野の1つだ。電池メーカーだけでなく自動車、電機、素材と関係業界が多岐にわたり、人材が慢性的に不足している。蓄電池関連のスカウトの依頼や問い合わせは2010年から急増し、当社にはすでに数十件が寄せられた。特にニーズがあるのは、蓄電池の安全性と量産化に関する技術だ。

日本の技術は高く評価されている。そのため、中国や韓国の有名企業からの依頼もあり、世界的な人材争奪戦が起きている。実際にスカウトに成功したのは、国内メーカー同士の案件で10件程度。成約案件の一例を挙げると、国内の自動車メーカーで電池関連事業に携わっていた60歳代の幹部技術者を昨年夏に大手電機メーカーに技術顧問として紹介した。また、大手電機メーカーの技術者を素材メーカーに紹介したケースもある。

急増する依頼に応えようと、当社は10年から太陽電池やリチウムイオン電池の研究開発に従事している技術者の



データベースを作成した。特許保有技術者はほぼ網羅しており、収録者数は現在7000人以上。これを元に適切な人材を紹介することができる。

日本企業の技術者がヘッドハントされて別の日本企業に移る場合、給与水準はほとんど変わらない。しかし、韓国などの海外企業に移る場合は1.5倍程度にまで上がるケースもあり、成果や実績への見返りが大きい。海外企業が技術者を重視していることがわかる。今後は車用から定置用など電池の用途も広がり、技術者はもちろん、販売やマーケティングの人材も求められるだろう。人材争奪戦はしばらく続くと思っている。(談)

大手ヘッドハンティング会社「サーチファーム・ジャパン」 早川修平氏に聞く
「世界的な電池技術者の争奪戦が続く」